



「学校給食週間」小中学生に食育指導を実施!

生産者が学校を訪問

市は毎年、学校給食週間(学校給食記念日である1月24日を含む一週間)に合わせて、残さず食べることや食の大切さを学ぶため、市内小中学校で食育指導を実施しています。

島田市立北中学校では、給食にキャベツを納品している菊川地区の村田雄哉さん、栄養教諭の蒔田千晴さんが講師を務め、生徒たちに指導を行いました。



キャベツを見せながら話をする村田さん(右)と栄養教諭の蒔田さん(左)



どちらがキャベツの花か(もう一方はレタス)を予想する生徒たち

村田さんは、その日の朝に採ってきた新鮮なキャベツを見せながら、おいしいキャベツの見分け方や、普段給食で食べている野菜の生育の様子、調理する前はどのような形をしているかななどを教えてくれました。また、蒔田さんからは、給食が始まった歴史や、給食を残さず食べることの大切さの話がありました。

生徒たちは2人の話を熱心に聞きながら、いつもとは少し違った給食の時間を過ごしました。



納品されたキャベツ

生徒たちは今回の話を聞いて「給食は残さずに食べたい。これからもたくさんの美味しい野菜を作って欲しい。」と話してくれました。

村田さんも「自分の話を聞いて少しでも野菜のことを知り、興味を持ってくれたら嬉しい。今後市内の小中学生のために、生産者として出来ることをやっていきたい。」と意気込んでいました。

学校給食週間には他にも小学校9校、中学校1校で食育指導等が行われました。

学校給食に地場産品の納品を
お願いします!



市では現在、市内全小中学校に学校給食を提供しており、日々多くの農産物等を使用しています。地元で採れる新鮮な野菜等を子ども達に食べてもらえるよう農家の皆様に納品のご協力をお願いいたします。

《納品要件等》

- ・大量調理のためなるべく大きくて形のそろったもの
- ・通年納品でなくてもOK
- ・代表者を決めてグループ納品も可
- ・献立内容によって使用数量、使用月の変更あり

その他、納品方法等詳しくは学校給食課へお問い合わせ下さい。

学校給食課

TEL 0547-333-3055

基盤整備で担い手への集積を実現!

西原地区の茶園整備事業

平成24年に農業委員会の担い手部会が開いた若手農業者と語る会をきっかけに、担い手が不足している茶園の基盤整備の必要性を確認。将来にわたって効率的で安定的な茶園にするため、若手農業者らが「基盤整備勉強会」を立ち上げ、市や県も事業説明等のサポートを行いました。



整備前



整備後

地区の農業委員も参加しての説明会を開き、地権者の同意を得て平成28年8月に工事開始、翌年度に事業が完了しました。その結果、農家数が30戸から11戸へ、団地数は42から11に集約化され、1戸を超える農家が3戸誕生。5戸の農地のうち1・7戸を農地中間管理機構を通じて再配分し、75%を担い手へ集積・集約できました。



勉強会の様子

そして全ての畝の向き、長さの統一化、圃場の高低差を極力なくした農道を整備したことで、乗用型茶園管理機の使用も可能となりました。

このように基盤整備を行うと、茶園の規模拡大、安定した品質管理、生産コストの削減となり、やりやすい農地にすることで、将来の耕作放棄地の発生を未然に防ぐことも出来ます。

今後も更なる農地の集積・集約化の実現に向けて、農業委員会としての活動を進めていくと共に、引き続き地域の皆様のご協力をお願いいたします。

農地の適切な管理をお願いします。

近年、農業従事者の高齢化や担い手不足等により、遊休農地が増加傾向にあります。農地が耕作されなくなると、雑草・雑木が繁茂し、病害虫の発生原因となったり、有害鳥獣の侵入やゴミの不法投棄の場所となる恐れがあり、周辺農地や近隣住民に多大な迷惑を及ぼします。

農業委員会では、農地法に基づき農地パトロールを行っており、また、遊休農地と思われる農地については、利用意向調査も実施しています。

皆様の所有する農地については、今後も責任を持って適切に管理していただくようお願いいたします。

農業委員会に相談しよう。

「自分では耕作できないし、農地を使ってくれる人も見つからない・・・」という場合には、耕作者を探してもらおう等、農業委員会に相談して下さい。